

千葉県食料産業クラスターの推進概況

～「ちばの「食」産業連絡協議会」の取組みについて～

1 千葉県食料産業クラスターの概要

2006年7月に設立された「ちばの「食」産業連絡協議会」の取組みについて、2008年2月8日にちばの「食」産業連絡協議会事務局を運営する千葉県農林水産部生産振興課 海寶 靖（かいほう やすし）氏にお話を伺った。

1.1. 「ちばの「食」産業連絡協議会」の設立

千葉県は東京を中心とする首都圏に畜産物・水産物・野菜等の食料を供給する農産物の一大生産地であり、中でも園芸全体の農業産出額は全国第1位と大きな位置を占めているが、県内には他県にあるような食品産業協議会のような組織が存在していなかった。しかしながら、近年では地域食材の見直し、地産地消の重要性も認識されつつあり、地域の農林水産業と食品産業が連携し、振興を図ることを目的として、情報交換及び商談の場の創出、付加価値の高い新商品開発・流通経路形成を促進すべく「ちばの「食」産業連絡協議会」が設立された。

1.2. 協議会の会員

生産者、製造業者、販売業者、消費者、金融機関、学識経験者、行政機関等11分野の団体・企業により形成されている。県試験研究機関については、テーマ毎に必要な会議に召集している。千葉県農業総合研究センターでは今年より業務用加工の研究等を始めた。

事務局は現在、千葉県庁の農林水産部生産振興課と商工労働部産業振興課で運営されており、農商工が連携して事務局を運営していることが特徴的である。

今後は、実務で動ける会員も増やし、取組みを進めやすい組織体制を整えていきたいという。



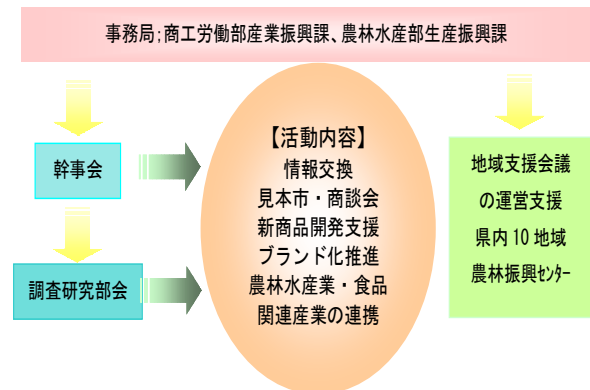
「ちばの「食」産業連絡協議会」事務局メンバー

1.3. 協議会の構想

千葉県は、一大消費地東京に近い首都圏に位置するという立地条件から、青果の市場出荷の安定的な需要があることや、青果物の品質の高さから加工品に回る青果も少なく、あまり加工品製造に重きが置かれてこなかった。

協議会では、今後、加工業務用の需要も増えていくと考え、昨年より流通実態調査を進めている。さらに、クラスター事業により商品が開発されても、その商品を流通に乗せていくことは難しいことを考慮し、販路拡大となるビジネスマッチング等の機会を創出する取組みを行っている。また、商品を開発するまでに至っていない事業者に対しては、協議会として、ゆるい枠組みを形成し、情報交換のプラットフォーム的な場となり、県内各地の様々な素材においてクラスターが形成されていくための基盤作りを進めている。

協議会として、加工部分を強化するためのきっかけとなる場や情報を提供していくことが必要であり、具体的な取組みについては、各事業者が主体的に動けるような体制を整えていきたいと考えている。



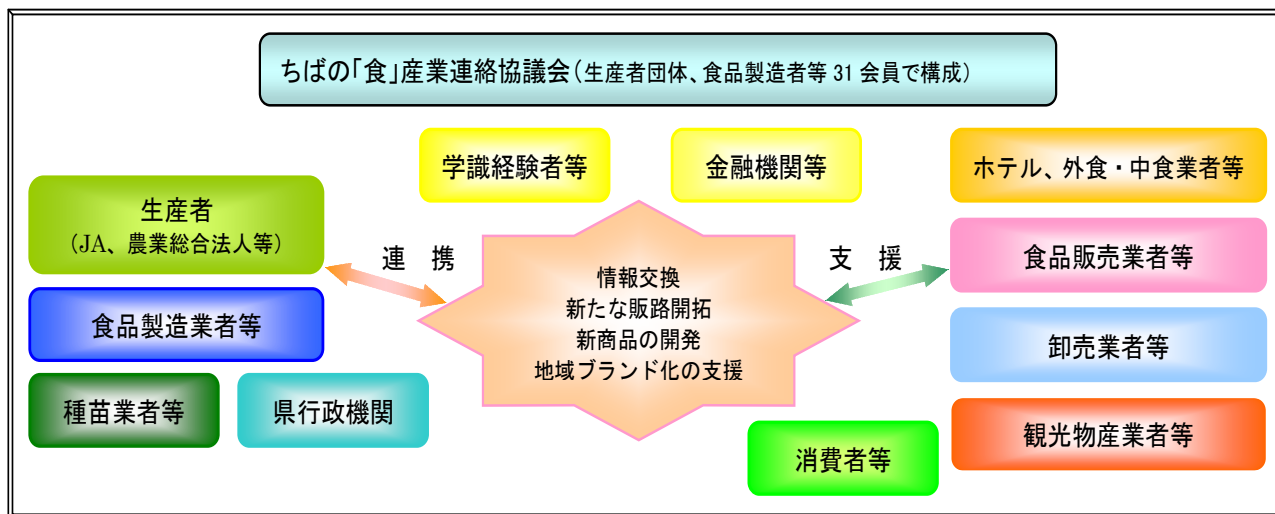
1.4. 協議会の取組み状況

協議会設立後の最初の1年は基盤整備ということで、生産者と食品関連産業の交流や情報交換の場に重点が置かれてきた。今後はクラスター商品開発につながるような取組みにつなげていきたいという。

① 見本市・商談会の開催

平成18年度より県と共催で生産者と食品関連産業の実需者との相互交流や情報交換の場として、年2回千葉県並びに東京都内で見本市・商談会を開催している。取引の推進や商品開発における連携協力、多様化する消費者ニーズに対応した生産・加工体制の整備促進を図るこ

<農林水産業と食品産業との連携推進事業>



とを目的としている。2月に行なわれた千葉県での見本市・商談会においては、産学官連携としての研究者発表の場、クラスター商品紹介の場も設置した。

② 現地見学会の開催

実需者に産地を見てもらう取組みとして、現地見学会を実施している。2007年11月27日(火)には、「ちばのかんしょ現地見学会」及び「さつまいもフォーラム」を開催し、現地見学会には実需者等25名、フォーラムには生産者200名が参加した。

③ 研究会の開催

全国で農業産出額第2位¹を誇るさつまいもに着目し、平成19年度にはさつまいも研究部会を発足した。また、千葉の特産品である落花生を取り上げ、農商工連携支援に向けた勉強会を開始した。これらは、千葉県庁内のグループメンバーを主体としたワーキンググループを組織し、それ以外のメンバーは固定せずオープンにしている。

県の農業総合研究センターにて、ベニアズマ、高系14号等品種毎の加工特性の研究を行っている。

また、香取地域のさつまいもをペーストにし、食品製造業へ供給するなどの試みも始めた。

今後は、県内菓子メーカーにおいて、さつまいもの加工品が商品化され、さつまいもクラスターが形成されていくことが期待される。

2 ちばの恵み新発見 見本市・商談会

2008年2月22日(金)に千葉県・ちばの「食」産業連絡協議会主催で、幕張メッセ国際会議場2階(千葉市美浜区中瀬2-1)にて「ちばの恵み新発見 見本市・商談会」並びに「特別企画セミナー～農林水産業と食品産業とが結びつくこと～」が開催された。今回の見本市・商談会は、特別企画セミナーでクラスター事例について講演い

ただくことや、ブースにおいて加工研究の成果や加工品が展示されることで、今まで以上にクラスター事業の紹介的な要素が含まれたものとなった。

2.1. 特別企画セミナー

見本市・商談会に先立ち、「農林水産業と食品産業とが結びつくこと…」と題した特別企画セミナーが行なわれた。セミナーでは、栃木県農政部生産振興課主査 高山 明彦氏より、栃木県における野菜産地改革についてクラスターの先進的な事例が紹介されると共に、佐原農業協同組合指導経済センター主査 三橋 功氏より、千葉県香取市のさつまいもクラスターの取組みが発表された。まず、香取市のさつまいもクラスターの説明に先立ち、千葉県のさつまいもの現状について、千葉県農林水産部農業改良課主席普及員 野々宮 弘明氏より説明がなされ、香取地域が千葉県のさつまいも生産において大きな位置を占めていることが述べられた。その後、三橋氏より「かんしょ(さつまいも)のブランド化に向けて」と題し、佐原金時さわらっこのブランド化に向けたクラスターの取組みが話された。



特別企画セミナー風景

¹ 平成18年農業産出額(農林水産省調べ)。かんしょ年間産出額全国第1位: 鹿児島県(192億円)、第2位: 千葉県(191億円)

取組みに至るまでの経緯として、東京の菓子屋より品質の高い千葉のさつまいもをペーストにして利用したいとの問い合わせがあり、さつまいもペースト作りに関して、県の香取農林振興センターに相談したところ、千葉県農業総合研究センターを紹介頂き、加工適正試験等のご協力頂くとともに、ペースト製造をしてもらえる業者の紹介を受けたと言う。

1 キロの芋から加工できるのは 600g 程度しかなく、歩留まりとしては悪かったが、三橋氏は東京の菓子屋で需要があれば、地元でも需要があるのではないかという思いで、ペースト作りへ乗り出した。



加工適正試験を行なったさつまいも品種

「動き出すと人が寄ってくるというように、上手いこと話が進んだ。商品化に関しては、市の農政課に相談したところ、元観光課ふるさと産品育成会担当(現農政課職員)より、地元の菓子屋さんへ声をかけてもらい、12月には菓子屋が8件集まり意見交換の場を持つことができた。1月には、原料1トンを集荷して、ペースト製造業者に加工してもらった。1トンから630kgのペーストができ、業務向け3キロパックにすることができた」と、トントン拍子に話が進んでいった様子が語られた。

三橋氏は、「自分一人、JAのみではとても商品化まで話を繋いでいくことはできなかった。知恵が集まればいろんなことができる。今後は、販路拡大に向け、少量で各家庭で利用できるようなものを作りたい」と夢を語る。

2.2. ちばのかんしょ（さつまいも）紹介コーナー

見本市・商談会会場の一角に「ちばのかんしょ（さつまいも）紹介コーナー」を設け、来場者を対象に、さつまいもの品種別加工特性の説明・試食や、佐原金時さわらっこやベニアズマ等のペーストを使用した試作品の試食・アンケートが行なわれた。

紹介コーナーには、和菓子、洋菓子と県内菓子メーカーによって作られた数多くの試作品が陳列され、商品の試食とアンケートへの回答で大変賑わっていた。



商品の試食・アンケートに回答する来場者

3 今後の展開

3.1. 今後の予定

現在、協議会を立ち上げ1年半、認知度を高める周知段階である。平成19年度は、さつまいもをメインに取り上げてきたが、それらの取組みが徐々に軌道に乗ってきたこともあり、来年度はさつまいも事業の継続と共に、落花生を利用した加工食品にも力を入れていくことを検討しているそうだ。協議会としては今後、県内各地の様々な素材においてクラスターが形成されていくような体制を整えていきたいと、基盤作りを進めている。

3.2. 今後の課題

千葉県は、今まで市場への生鮮出荷を重視し、加工・業務用需要への対応があまり進んでいなかった。食料産業クラスターの推進という面から見ると、農産物の地域素材が豊富にあるにもかかわらず、生産者と食品企業の連携があまり進んでいないのが現状である。県としても、今までは、食品企業との関わり合いが希薄であったと考えているようだ。

事務局は、農林水産部と商工労働部の二本柱で構成されている点を生かし、農林水産サイドの加工・業務用需要への対応を図っていきたいという考えと商工サイドの地域資源を活用していきたいという考えをうまく融合させて、農林水産業から食料産業までがつながっていける一貫した取組みを作り上げて行きたいと、農商工が連携し意気投合した前向きな姿勢をみせている。

【お問い合わせ】

ちばの「食」産業連絡協議会

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

(千葉県農林水産部生産振興課内)

TEL 043-223-3085 FAX 043-222-5713

(文：社団法人食品需給研究センター 松崎 朋子)